



学校教育目標『つながる 続ける 創り出す』

令和8年10月21日

横浜市立三ツ境小学校

三ツ境小だより 11月号



学校とまち（地域）とのかかわりを大切に

校長 山本 美和

10月半ばを過ぎ、桜の木の葉が茶黄色に色づいてきました。ようやく秋の訪れを感じる、今日この頃です。

今月は、4年生の愛川宿泊体験学習に始まり、5年生の流域サミット参加（市庁舎）、2年生の金沢動物園遠足、5年生のふれあいコンサート（みなとみらいホール）、1年生の狹路公園遠足、5年生の三浦宿泊体験学習、個別支援級の八景島シーパラダイス遠足と、各学年の行事が多くなっています。学校生活では経験できない体験や、学級や学年のみんなで一つのことを成し遂げる達成感、公共のマナーなど多くのことを学ぶ機会となります。お弁当作りや持ち物等、既にご協力をいただいた学年の保護者様、ありがとうございました。引き続きのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

さて先日、私と副校長は、三ツ境連合自治会主催の「第53回三ツ境地区レクリエーション大会」に参加しました。原中学校の生徒がボランティアをしてくださり、本校児童、幼児からご年配の方まで幅広い年齢層の方々が笑顔で楽しんでいたのには、一体感というか、地域の絆を感じました。また本校児童が、このような温かい方々に囲まれて成長していることに改めて気付かされました。

数年前、東京都杉並区教育委員会の「いいまちは いい学校をつくる」という合言葉を目にしました。「改めていうまでもないが、学校・家庭・地域は、それぞれが教育の重要な担い手である。互いに理解を深めて課題や問題を共有し、役割に応じた責任を負い、当事者として共に支え合う関係でなくてはならない。」（教職研修2024.4より抜粋）と井出隆安前杉並区教育長は述べていました。

私自身、毎月、連合自治会の定例会に出席させていただいていますが、学区内の各自治会も穏やかで温かい方が多いと感じています。本校児童が全体的に穏やかなのは、このようなまち（地域）の中で育っていることも影響していると考えます。

前杉並区教育長の話のように、本校も保護者・地域の方々に教育活動を支えていただいています。「PTA」「校外委員」「児童安全見守り会」「図書ボランティア」「緑遊会」「心結会」「学校地域コーディネーター」「特別支援教育支援員（地域住民）」「子どもの学びボランティア」です。その他にも、学校のお願いに快く力を貸していただいている方々が多くいらっしゃいます。

以前、映画「みんなの学校」の舞台となった大阪府立大空小学校の木村泰子初代校長のお話を直接伺う機会も得ました。映画をご覧になった方もいるかと思います。この学校では、学校と地域が対等なパートナーシップを結び、先進的な教育実践が行われています。

お話を伺う中で、「三ツ境小学校は、地域と対等なパートナーシップ関係であるか」を自問しました。そして、「学校が地域にできることは、子どもたちが元気で明るく登下校し、次世代の地域住民をしっかりと育てること。これによって、対等なパートナーシップ関係を築くことができる。」と考えました。まだまだ対等なパートナーとは言えないところもありますが、お力を頂きながら未来のまちを支える子どもたちを大切に育成していきたいと思っています。